

かいせい かん 「開成館」とは？

「開成館」の名前の由来

「開成館」や「開成社」「開成山」など、開成館の他にも「開成」とつく名がある。では、「開成」とは何か。

福島県開拓掛の中條政恒は、離れ森（現在の開成山大神宮一帯）を「開成山」と改めた。「開成」は、中條政恒が以前からの志である「開物成務^{かいぶつせいむ}」からとったものである。「開成館」「開成社」も中條により名付けられた。

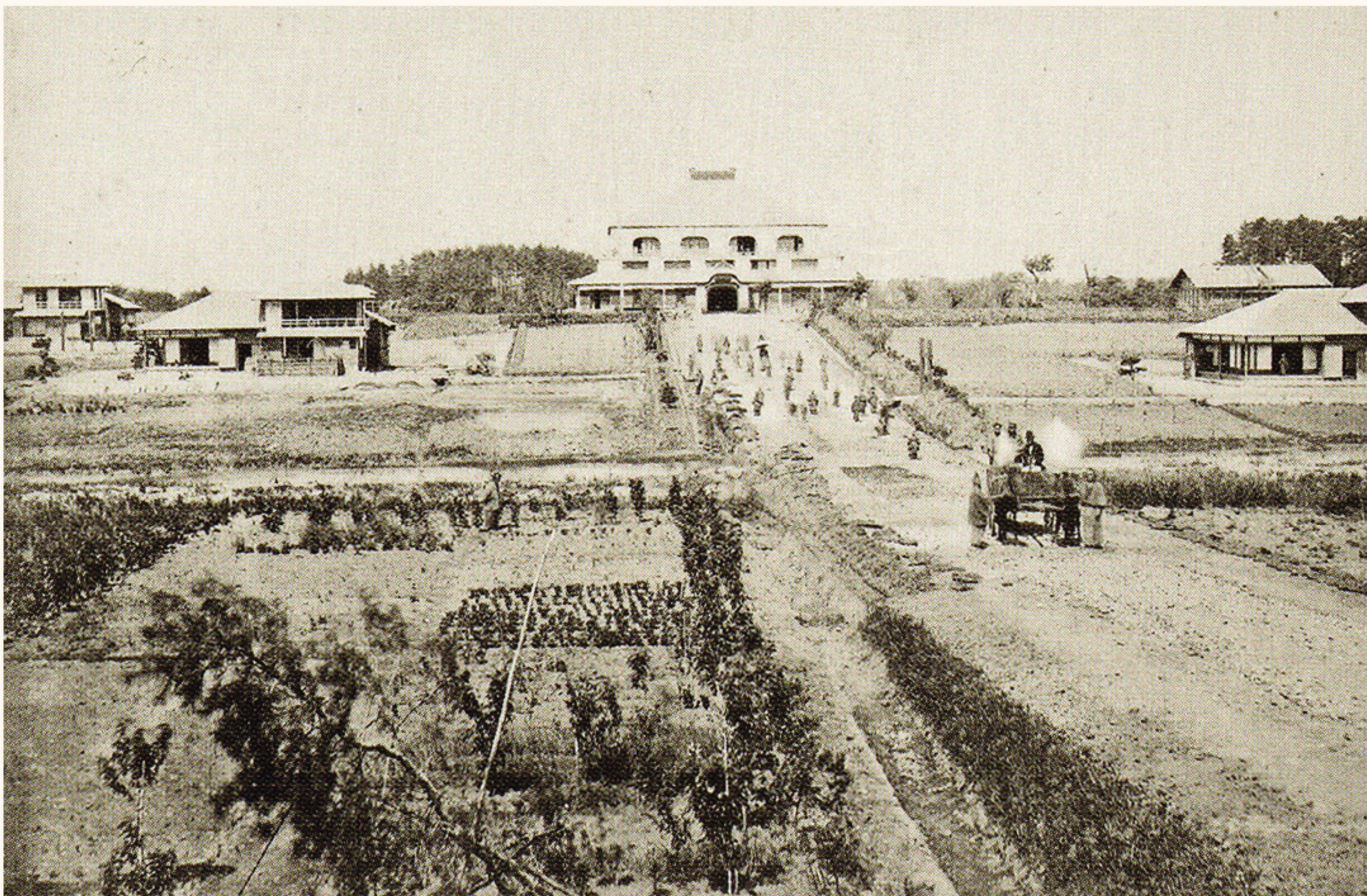
「開物成務（物を開きて務めを成す）」は易経の言葉で、明治42年（1909）発行の『故事熟語辞典』によれば、その意味は「人の未だ知らざる所の者を開発し、人の為さんと欲する所の者を成就するをいふ」とある。幕末から明治初期にかけて広く用いられた。中條の座右の銘である。

原中一小阜アリ、放レ森ト云
水ニ枕ミ四方ヲ収覽ス、先ツ之ヲ改称シテ、以テ拡
業ノ大旨ヲ示ス、実ニ是月ニアリ、公達左ノ如シ、
岩代国安積郡大槻村近接ノ曠原中放レ森ト唱来候
場所有之候、自今以後開成山ト改称可致事
右之趣郡中無洩可相達候也

開成山へと改称
「福島県開墾誌」
県庁文書より抜粋
福島県歴史資料館蔵
読点「、」を加えた。

明治9年ごろの開成館

皇居三の丸尚蔵館や宮内庁書陵部には、明治天皇の「御手元写真」が残されている。明治天皇が巡幸した地方の写真も数多くある。その中に、明治9年（1876）頃の開成館を写した写真も残されている。建築当初の姿を伝える貴重な資料のひとつである。



福島県管下安積郡桑野村開成館の図

皇居三の丸尚蔵館収蔵 『各地勝景三 明治九年巡幸関係・小笠原島ほか』より「福島県管下安積郡桑野村開成館の図」
建築当初の開成館の姿